

お話は是非子供の情意生活にあてはまらなければなりません。

八、本質から見た選び方、では、出来るだけ、お話の本質に合したものがいいと思ひます。

或時代に於て、お話は智的にどこまでも訓育的に有益に／＼と偏する傾向がありました次には其反動として、有益といふよりも心のほどける爲といふことを主にしました。

近頃では後者の方が尊重せられて居ます。一體此頃の多く話される話に二種あります。それは、無意味話（イノセントストーリー）及び理科物語であります。軽い、一寸した可笑しみといった様な生活に幼児を入れるのも、科々々々で現實感に入れるのも大に結構な事ですが、かういふ事の外にお話の本質に屬して、お話でなければあたられないのは、驚き、此世には驚くべきものがある、怖れ、この世には怖るべきものがある。憧憬、この世には憧憬すべきものがある、と云ふ感じであります。

精確と説明を主にする理科と、軽い長閑な息ひの生活の外に、其外に驚嘆、崇敬、嚴肅の生活も何となく養て置きたいものであります。

今の幼稚園ではこの深み奥行が最も缺けて居ります、お婆さんが語る鎮守の森の話は、お婆さん自らが其處に驚きと怖れ、憧憬を持って居りますから、それをきく子供には何となくそれが感じられるのです。そういう風なことが、今日の教育のお話には極く少い。

〇お隣の秀子ちゃんは

お誕生を過ぎた許りの秀子ちゃん

よち／＼あるいてバタリとたほれ。

『居ない／＼』『バーア』が大お好で

障子のうしろに廻つては『バーア、』

お母さんの背にうづめた顔をあげては『バーア、』

お店の用事奥の用事なか／＼忙しい母さんは

『ねんねんやう』を朝の中から寝かしつけても

れるのが嫌ひの秀子ちゃんは

すぐ眼がさめて匍ひ出して立ち上る

『もう目がさめて、秀子ちゃん、母ちゃん御用が出来ません

好い兒だも少しねんねんやう』

云はれるそばから秀子ちゃんは

母さんの背に乗つて『バーア、』

お店に行けばよち／＼と

帳場の臺に匍ひのほり

足をなげ出し坐り込んで
父さんの顔のぞいて『バーア、』